

者が共にチェックをし、水の品質が保たれているかを確認することになります。

ですから、たとえ BOT 方式で実施されたものであっても、我々は行政機関に準ずる権限を持つ者として、常にチェックを行っていくことになります。行政処分の例で申し上げますと、例えば我々がチェックをした上水のサンプルが基準を十分に満たしていない、基準より悪いものであった場合には、その上水のサンプル 1 件に対して罰金が幾らか科せられるというような規定があります。

その他、微生物に関する指標が基準に合致していない場合においては、生産の停止、または一時停止、生産の不許可、さらには関連する賠償の実施を要求していくということになります。

座長（小田弘登） ヴォ・クァング・ガウさん、ありがとうございました。民間が公社に対して上水の水質や量について保証することが大事だということ。BOT 方式であっても、行政機関としてチェックを行っていきたいということでした。

では、以上で各都市からの事例発表と意見交換を終了させていただきます。それではここでコーヒブレイクに入らせていただきます。

----- コーヒブレイク -----

#### はかた夢松原の会活動報告

はかた夢松原の会 代表 川口道子

座長（小田弘登） これより市民ボランティア団体の活動報告に移させていただきます。

市民ボランティア団体である「はかた夢松原の会」の説明と、会の代表を務めておられます川口道子さんの経歴につきましては、お手元の資料に掲載いたしておりますので省略させていただきます。それでは「はかた夢松原の会」の代表であります川口道子さん、よろしくお願いいたします。

川口道子（はかた夢松原の会） ご紹介いただきました川口でございます。本日は、こんなすばらしい実務者会議で、私どもがささやかな市民運動として行っておりますものを皆さんにご紹介できることを大変幸せに思います。20分という時間ですので、スライドを使用して簡単にご報告し、皆さんに見ていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



それではスライドをお願いします。

\*これは埋め立てられました百道の海岸です。福岡の博多湾には、130ぐらいの川の水系が流れ込んでいます。この博多湾が埋め立てられた海岸に、私たちは昔あった松原を再現したいと思いました。松苗の募金を広く全国に呼びかけ行政と関わりながら、この2.5kmの人工海浜に松を植えてきました。この埋立て地に初めて来て、何もない広大な砂地に是非白砂青松を復元したいと話し合い、運動を進めることになりました。

\*次は松原ソンといい、埋立てたところを皆で走ってマラソンをした時のものです。この時は3,000人ほど集まりました。いろいろな人達が集まって来ました。海からも海洋少年団がボートで駆けつけてくれました。また、オイスカ（海外農業研修生）の人達が野菜を持って応援に来てくれたり、

いろいろな所から様々な応援をいただきました。松原ソン参加者が心を1つにして“ここに私たちが松を植えるんだ”という第一歩を踏みしました。

\*これは第1回の植樹で、成木の松、向こうに見える14~15年ぐらいの松と、苗を3,000本ほど植えました。

これは成木がずっと並んでいるところです。松は、皆さんからいただきました。報道関係もニュースで流していただいたりして、全国から“松をあげます”“あげます”と言われたのですが、やたらと植えて廻るわけにはいきませんので、まずは3,000本の松を植えました。現在は市民の憩いの場になっています。

\*これは農学部に留学しておられる韓国の李さん夫妻で、この松の募金活動を始めてちょうど1万人目の募金者です。皆さんの拍手の中で松を植えていただきました。

\*次は海の中道海浜公園です。日本海に面した沿岸で大変北風の強い所です。そこに海洋少年団や小学校の子供達が松を植えたり、毎年、松苗1,000本ずつ13年間松を博多湾沿岸に植えてきています。海岸で風の強い所は松が砂に埋まりなかなか育ちにくいこともあります。

\*これは西福岡マリナタウンというところで、博多湾の西側に松を植えた時のものです。

\*これは離岸堤といえます。博多湾の中に小さな島があり、潮が引きますと歩いて渡れるところです。ここに苗を植えました。今は青々と茂っております。

\*これは高速道路です。ライオンズクラブの方達から“皆で松をここに植えましょう”と提案があって、高速道路の海風の吹く側に植えました。これは今、大変素晴らしい成長を見せております。

\*このスライドは、中国の黄河流域に広がるトンガリー砂漠の緑化事業を視察に行った時の様子です。海の中道の砂で松が被害にあった時に、私たちも考えさせられましたので、この場所を見に行くことにしました。北京から銀川まで飛行機で行き、バスに2時間ほど乗り中衛を視察しました。これは麦わらを使って、1m四方の枠をメッシュにして砂止めをしているところです。

\*このスライドにあるように小麦の殻でメッシュをつくって緑化を図っておられました。この方は張克智さんで、銀川砂漠研究所所長も兼務しておられる緑化事業の責任者です。メッシュにつながる砂止めの技術のお話と黄河の水を汲み上げて植林を進める事により農地を豊かな土地として出現させた後、無料で農民の方13,000世帯が入殖して果物等栽培に成功しているなどの経緯をお聞きしました。総指揮監督する場長の張さんの20数年に渡る緑化事業への情熱に感動と感銘を受けました。また、蘭州鉄道のモンゴル自治区から甘肅省までの包蘭鉄道を砂から守ったという本当に素晴らしい55kmにわたる砂止めの現場を見せていただき、本当に感激いたしました。そこで1996年に張先生を福岡にお呼びして、シンポジウムを開催いたしました。

\*これは緑化が進んでいるところです。後ろの方が包蘭鉄道です。何万人かの方が参加して、緑化した立派な農地が今後もまた増えますとの説明がありました。

\*1997年に中国の環境保護センターを中心にして“水環境と人間の健康”ということで北京で交流会を行いました。私たちも20名ほど集まり、北京清華大学教授の王占生先生や他にも4名ほどの技術者の水環境に関する中国の現状などについての話をお聞きしました。日本からは九州大学の神野先生が“飲み水の確保について”報告され、交流をいたしました。

\*これが神野先生の水の確保についての報告風景です。福岡市の皆さんは水不足に対して大変敏感です。神野先生もこの件について研究しておられますので、中国でその研究発表をしていただきました。

た。

- \*これは西安の環境保護局を訪れ、ダムを見たり、その水の状況などをお聞きして交流した時のものです。
- \*私共は西安から長春に参りました。長春では下水道の工事などを見学させていただき、ハルピンでは松花江の川の様子など見学しました。
- \*そこで環境保護局とも交流いたしました。私たちもいろいろと教えられることが多かったのですが、中国もまた、水では大変だなという感じを持ちました。このような経緯もあり、1998年から、北京、香港、日本の約20人ずつで、北京の中国環境保護センターで交流会を持ち、それぞれの地域の発表を行いました。子供たちは北京の湖に船を浮かべて水質検査を行いました。ハルピンでも水質検査をしました。水質調査と言いましても、小中学生のバックテストで簡単なものではありません。が、水質についての意識を子供達はじめ皆が持つことは大変良いことではないかと、クイズをしたり、様々な環境交流を行いました。また中国からも、昨年と一昨年に20名ほど日本に来ていただき、子供達と一緒に大分県の水源地でもある南小国で交流会を行いました。こうした経緯から、私どもは水に対して感謝しなければいけないと“水の感謝祭”を始めるようになりました。
- \*これは水合わせの儀の様子です。博多湾には御笠川、那珂川など130水系が流れ込み、大変な量のごみが川から流れてきます。沢山の量です。海の水が汚染されないように、私たちは川をきれいにしなければいけないとの思いから川の流域の人達と交流を始めました。そして、まずは川の主だった方達と顔の見える交流をするため、“水の感謝祭”に自分のところの川の水を持って来ていただき、その水を1つにして思いを共有しながら交流会を行いました。
- \*ご覧のように、全てが手づくりで着ているものも私達の手づくりでございませう。“水の感謝祭”では、皆で感謝の舞を舞いました。笹竹を立てて、子供達が書いた“きれいな水をちょうだいね”といった短冊を下げたりして大変楽しい集いでした。
- \*幼稚園の子供達も300人程来てくれました。花のおみこしを担いだり、海に入ったり、皆喜んで、次もぜひおみこしを担ぎたいと言ってくれました。今年は、保育園の子供達もたくさん来てくれました。
- \*これは筑後川の源流でもあります阿蘇での植樹の様子です。博多からバス4台で、200人程参加しました。阿蘇の春は野焼きから始まります。野焼きは、放牧する牛たちのエサになる新芽の草を育てるためのものです。その素晴らしい野焼きを見ながら、横の山で広葉樹を3,000本ほど植えました。これがとても良く育っており、現在下払いや間伐に行っています。このように上流の人と顔の見える交流をしながら水の大切さを体験しています。
- \*これは水源地の平野台で、途中に“すずめ地獄”というのがあり、ここに魚は棲まないのですが、そのようなところでも、一応生物調査をしようと福岡市環境保全部の職員の方にボランティアで参加していただき、一緒に生物調査を行いました。
- \*これは水源地です。とても冷たくて、3秒と入ってられない大変冷たい水が流れております。都市の子供達は大変喜び、こんなに水はおいしくて冷たいきれいなものかと感激しておりました。
- \*これは水質調査を行った時のもので、先程のすずめ地獄でもそうでしたが、微生物が沢山おりますので、それを、その表と見比べながら勉強しました。“すずめ地獄には特殊な真っ白い虫がいるけれど他にはいないんだ”などと先生から教えられております。私達は川で子供達と交流する時は、

バックテストの水質調査と生物の調査、ビンゴゲームなどを行いながら楽しく体験学習を行っております。

- \* 福岡市水道局のビデオでも出ておりましたが、これは筑後川の大堰でございます。導水するための筑後川の水の水質調査をしようとしているところです。筑後川は50km余りの長い川で、上流から中流へ水質調査をしながらここまで参りました。ここは海に近い河口のところ。筑後川からは、福岡市を含め福岡都市圏の7つの町と9つの市に導水されていますので、私達は本当に水を大事にしなければと、ここで皆で話しあったものです。井堰でも水質調査をしましたが、上流や中流とあまり水質は変わらず、きれいでした。中国の長春の池で水質調査をした時は、少し水質が悪いにも拘わらず子供達がそこで泳いでいましたので、少し心配になって子供達と話をしたこともあります。しかし、この筑後川は流れも雄大で、そういう意味でも大変水質は良かったです。
- \* これは樋井川で本当に短い川です。福岡市城南区の中を流れております。川沿いの草薮には、ごみが捨てられているもので、私達は何とかきれいにしようと考えました。城南区には中学校が6校区、小学校が11校区で1万人の生徒がいます。そこで、学校に呼びかけたところ、いろいろな障害もありましたが、何とか子供達を引き入れることが出来ました。“1万人大作戦”と銘打ったのですが、3,000人が来てくれました。
- \* これは川の石に絵を書いている子供達です。とても楽しんでいました。大潮の時は、潮が引き大変広い空間ができます。そこでドッチボールなどをして遊びました。私達も知らなかったのですが、河川の管理は、県と市とで、それぞれ役割が違います。このように実際に川に入ったりして見ると様々なことがわかり大変勉強になりました。樋井川は、今は大変きれいになって川沿いにお花を植えるなどしております。

このように、天から水を蓄えて浄化してくれる山々や樹林、豊かな土地などを守っていただく流域の方達に本当に感謝しながら、私達は今後も“水の感謝祭”を続けて行きたいと思っております。大変短い時間で、またつたない報告でございましたけれども、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

座長(小田弘登) 川口道子さん、どうもありがとうございました。さまざまな環境問題や水源地域との交流など、会の貴重な活動報告をしていただきました。

## 国連報告

国連人間居住センター(ハビタット)人間居住オフィサー グラハム・フィリップ・アラバスター

座長(小田弘登) 次に、国連報告に移らせていただきます。国連人間居住センター(ハビタット)のアジア太平洋地域を管轄する福岡事務所が、このアクロス福岡内にごございます。現在、ハビタット福岡事務所において、アジア各国の人間居住開発プロジェクトなどに関する技術援助やモデル事業の実施、人材育成など様々な活動が行われているところです。

今回の会議のテーマであります「安全な水道水の供給」に関しましても参考となる部分が多数ありますので、ナイロビ本部のグラハム・フィリップ・アラバスター人間居住オフィサーに、「21世紀における都市の水管理」について報告していただきます。アラバスターさんの経歴につきましても、お

手元の資料にございますので省略させていただきます。それではアラバスターさん、よろしくお願いいたします。

グラハム・フィリップ・アラバスター（ハビタット） どうもありがとうございます、座長。プレゼンテーションを始める前に、世界中の多くの都市では、アジアも例外ではなく、広範囲の人々に水を供給しなければならないことを認識することが重要だと考えます。高所得者に水を供給しなければなりません。その対局には低所得者もいます。ですから、本日のプレゼンテーションは都市の水管理に関連して、ハビタットが世界中で実施してきた活動から学んだことをいくつか考えていきたいと思います。次に、ハビタットが世界でも水不足の厳しい地域であるアフリカ地域で開始したプロジェクトについて簡単にお話ししたいと思います。また、ハビタットはアジアの都市で水道管理活動を始めたいと切に願っておりますので、それについても少しお話ししたいと思います。



まず、私達が直面している世界的状況を見てみましょう。1996年にイスタンブールで開催されたハビタットⅡ（第2回国連人間居住会議）以来、世界の貧困者の状況は悪化しています。実際、今こうして話をしている間も、世界中で少なくとも13億人がきれいな水が手に入らない状態にあります。その多くは大変な低収入で生き延びています。お金を払って各種サービスを購入できる高所得者に加え、この人口グループのことも考えねばなりません。

では、都市での水の供給を取り巻く問題についていくつか見てみましょう。

非常に重要な一面は、水は実際に限りある資源だということです。世界中の、そしてアジア地域の多くの都市では利用できる水資源の量が制限されています。実際、水には経済的価値があるのです。多くの場所で異なる部門、つまり産業、農業および家庭の消費者による水の使用において大きな差があります。経済発展と水の供給との間で摩擦が生じているところもあります。非常に貧しい人々は、生きるために金持ちより高いお金を重要な資源に支払っています。驚かれるかも知れませんが、貧困者が金持ちの20倍もお金を水に対して支払っている都市もあるのです。収入の10%近くを毎日水に費やしている人々もいます。こういう状況が存在するのは、1つには公共部門が往々にして都市の高所得者層、水道代を払える人々に注目し、焦点を当てているからです。世界中で水道事業の民営化傾向が進んだとしても、常に公共部門に十分な規制を行うだけの力があるとは限りません。多くの都市で最低限の水質の水や処理排水や一旦使用された水が川に流されていますが、それらを有効に利用することができれば有限な水への依存度を軽減することができます。

多くの援助供与国は、節水や節水奨励にお金を使うより、むしろ新しい大資本プロジェクト—新しい大規模な水道計画—への支援を好みます。また、民間部門も供給する水に対して支払いがなされ費用を賄える限り、例えば民間企業が水道メーターの向こう側での水漏れを低減する必要は必ずしもありません。顧客が支払うのであれば、必ずしも民間部門が節水に関心を持つ必要性はないのです。おそらく使用水量を低減する可能性が最も高い分野の1つは、もっと効率良く水を利用するよう人々を教育することでしょう。先程も、水の使用法に対する考え方を改めて、水は際限なく使える必需品であり価値がない、という考えを捨てるよう奨励していることについての話がありました。しかし、市や町が大きくなるにつれて、ごみが発生し、そのごみが適切に廃棄あるいは処理されない、また貴重

な水源を汚染することが往々にしてあるのです。ですから、市の水管理はもっと効率良くならなければなりません。本日ここで、既に素晴らしい水管理をしておられる例をいくつかお聞きしました。しかし、それでも、市の配慮を必要としている人は大勢いるのです。

さて、ここで少し統計をお見せしたいと思います。これからご覧いただく3つの表は数年前にアジア開発銀行が制作した“Asian Utilities Water Handbook”から取ったものです。

1枚目のスライドは各市の一人あたりの水の消費量の範囲を示しています。ご覧のように、一方では70ℓあたりから上は250ℓまでとなっています。これらの人々は自宅に水道が通じている幸運な人達です。もちろん、他に1日50ℓをはるかに下回る水で生き延びている人々もいます。しかし、ご覧のようにアジア各都市の1人あたりの消費量には大きな差があります。

今朝、シンガポールの無収水量が非常に少ないというお話がありましたが、シンガポールは失水量の点ではリストのトップに位置しています。ご覧のように、ここでも、おそらく50%に及ぶ差があり、生産水量の半分を失っている都市もあるのです。このような数字は、他の多くの大陸でも見られます。アフリカの多くの都市の無収水量は30~50%、そして、ヨーロッパでも無収水量が20あるいは30%を超えている都市がたくさんあります。これは何とかすべき数字です。

次の表は配水網システムで、修理および取替えが必要な割合を示しています。表の左側に都市名がありますが、これを見ると不良メーターや故障したメーターの取替え頻度がわかります。下の横軸の数字は接続部100毎のメーターの修理件数です。

都市において本当に効率の良い水管理を行うには、単に水質だけでなく水量も考慮しなければならないことは明らかです。多くの市は川や水域の地表水だけでなく、地下水—帯水層の水にも依存しています。全て水は汚染されないよう保護する必要があります。そしてまた地下水は特に汲み上げ過剰となっており、地下水源から水を過度に汲み上げたために、淡水の帯水層が取り返しのつかない程破壊されてしまった多くの場所が見られます。海岸地域の場合は特にそうです。海岸部の淡水の帯水層は海洋環境からの塩水で汚染され易いのです。

次に量に関してですが、普通、都市の水には限りがあります。その理由は、資源に限りがある、貯水池が一定容量しかない、あるいは取水域から都市に水を送る配水管のサイズが一定であるからだと思われませんが、他にも乾燥した気候の土地に住んでいるせいもあるでしょう。アフリカの多くの国はその例に挙げられます。例えばエジプトでは基本的にナイル川が唯一の水源ですし、配水網システムの効率が悪いために制限を受けている都市もあります。システムが古すぎる、十分な容量がない、あるいは修理が不十分なために大部分の水が失われている都市もあります。また、水の無駄使いも水に限りがある理由の1つでしょう。おそらく人々は水の真価やその経済的価値を十分に認識していないのかも知れません。

では、私達にはどういうチャンスがあるでしょう。多くのチャンスがあります。都市における水需要管理を促進することで水の消費量を低減でき、20%も消費水量が減少する事例もあります。これは大変な量です。新しい処理施設の容量を増やしたり、全く新しいシステムを建設したりする代替として、節水を考えることも可能だと主張していいでしょう。

もう1つ、都市の貧困者に話しを戻しますが、彼らの多くは水を買うことができません。先ほどお話ししましたとおり、中には私達の10~20倍ものお金を払って水を手に入れている人もいます。公正な価格で水を買う機会が与えられれば、彼らの多くは料金を払うことができるでしょう。都市の貧困

者は水の供給を必要とし、それに対して支払う用意のある未開拓の人口グループなのです。また、高所得者の使用水量や産業用水を20%節約し、その節約分を都市の貧困者に向けることができる都市もあるかも知れません。

新たなインフラへの投資を遅らせる、おそらくこれが節水奨励の最も重要な一面でしょう。たとえソフトローンであっても、開発銀行からの借入金のコストは多くの国の経済力をかなり損なっています。わずか5年投資を遅らせることで、都市は水需要管理を実施するに十分なお金を節約できます。私達は多くの都市でこの事実に気付きました。もちろん、市民教育を通して水に関する市民の認識も高まります。

ですから、都市の戦略を練るにあたっては、まずは水の需要管理を考えるべきなのです。ここで水の需要管理が意味することについてお話しします。淡水源に対する都市化の影響を最小限にし、全地域内での交流を奨励し、都市の水道管理に関する優れた実践を広める。そして、より長期的には、もっと投資のてこ入れができればと思っています。新しい水道計画は最終的に投資が必要となるでしょう。しかし基本的には、このアプローチを採用することで人々に十分な投資を促す機会が生まれます。

どの都市のどの場所で仕事をしているかや、その内容にもよりますが、都市レベルでの水需要の管理には様々な選択肢がありえます。貧困者には低価格で水を供給でき、大量使用者は累進的に高い料金を支払う、いわゆる累進料金がおそらく最も効率の良い水需要の管理方法の1つでしょう。

もう1つは、水漏れの発見と修理です。水漏れはメーターの前と後の両側を考慮することが重要だと付け加えることが必要でしょう。水道メーターの向こう側、家庭やアパート区画内でひどい水漏れが起きていることがよくあるのです。また、排水の再利用も選択肢の1つです。処理排水を灌漑等の目的のために利用するのです。

他にも諸施設の旧型装置の更新を行い、施設内の水道装置を取り替えることで水の使用量を低減することができます。低流量シャワーヘッド、自動止水栓などです。これは家庭用水に限ったことではありません。また、産業用水の利用や特定の製造業における排水のリサイクル方法を考えることでより大きな成果が上がる都市もあるでしょう。

ハビタットがアフリカのプロジェクトで採用したあるアイデアは非常にうまくいっているようです。第1段階で都市全体の旧型装置の更新あるいは活動を完全に実行するのではなく、都市でパイロット地区あるいは代表地区を選出し、そこで小規模の実証実験を行うのです。そうすれば、都市全体にそれを拡張すればどうなるかを十分に予測することができるでしょう。これはもちろん、地域社会教育ということです。

淡水への影響を最少限にするためには、排水処理などの問題に集中的に取り組む必要があります。固形廃棄物管理も問題です。埋立処分地の管理が不十分であるだけでなく人々が排水路にごみを捨てたりするからです。これら全ての面に注目する必要があるのです。淡水への影響を最少限にするために要求されるのは、一貫したアプローチです。

地下水の汲み上げについては既に申し上げましたが、排水や最低限の水質の水を使って帯水層の涵養を図るといった可能性もあります。

もちろん、低所得者のための現場での公衆衛生管理方法の改善も必要です。

優れた実践経験を共有する方法はたくさんあります。実際、この会議がその一例です。専門家がお互いの市を訪問し合う方法やキャンペーン向けの鍵となるメッセージを考案する方法等、様々な方法

により有用な情報を共有することができます。これはおそらくアジア地域に特に当てはまることだと考えられます。

さて、ハビタットが一年程前に開始したアフリカでの水プロジェクトについて少しお話ししたいと思います。このプロジェクトは基本的に3段階からなっています。第1段階で7か国程を選出し、各国の関心や節水の必要性をもとに、その国の特定のパートナーと確固とした協同取り決めを結びました。そして、各都市は水の重要管理や環境保護に関する情報および情報交換をもとに行動計画を策定しました。現在、このプロジェクトは実施段階にあります。都市レベルの活動とは別のプロセスもあります。私達が去った後のプロジェクトに何かを残そうと、特定の都市で専門家の能力育成を行っているところです。また、もちろん長期的には引き続き水道部門への投資を行います。節水的を絞ります。約18か月で結果をまとめ、それをアフリカの都市における水管理向け政策アプローチの策定に利用できればと考えています。

現在は、7都市でプロジェクトを実施しています。西部アフリカのダカール、アクラ、アビジャンの3都市、残りは東部および南部で、南アフリカのヨハネスバーグ、サンビアのルサカ、アディスアベバ、そして私が住んでいるケニアのナイロビです。各都市はこの問題に取り組むため総合的な方法での一括活動を特定し、これと平行して、ほとんどの都市は援助国から資金援助の合意を取り付けました。ハビタットは全ての政府から取り決めの覚書という形で固い言質を取っています。

最後となりましたが、ハビタットは、前回の実務者会議をきっかけに福岡市の廃棄物処理に関する技術いわゆる福岡方式の国際技術協力に関与させていただいたことを大変嬉しく思っております。また、これからも率先して都市の水管理に着手したいと真剣に考えております。お手元の情報に、私共がアフリカ地域で参加都市の関心を把握し判断するために利用したアンケートが入っています。関心のある方は声をかけていただき、このプロジェクトに関する考え等をお聞かせいただければ幸いです。

最後のスライドで、プロジェクトの特定要素についてのアイデアのいくつかを見ていただきました。最も重要なことは、都市における十分な水管理の現実的実証の必要性を感じたことです。本日は多くの事例のいくつかに耳を傾けました。アジア地域の多くの都市がその情報を共有することで大きな恩恵を受けるでしょう。最終的には情報の共有、そして優れた実践の共有が水道部門の政策改革につながると考えます。そうすれば、今まで無駄に失われていた水の大幅削減、この限りのある資源の節約が期待できるのです。皆さん、ご清聴ありがとうございました。(拍手)

座長(小田弘登) グラハム・フィリップ・アラバスターさん、ありがとうございました。ハビタットの活動について、専門家の立場から有限で貴重な水資源をいかに有効にかつ効率よく使用することについて、具体的な方策について提言していただきました。また、アフリカでの7都市での活動の実践についても報告していただきました。誠にありがとうございました。

## 自由討議

座長(小田弘登) 以上、4都市からの事例発表と市民ボランティア団体の活動報告及び国連報告を終えましたので、ここで自由討議を行いたいと思います。質問でも意見でも結構です。よろしくお願いたします。